



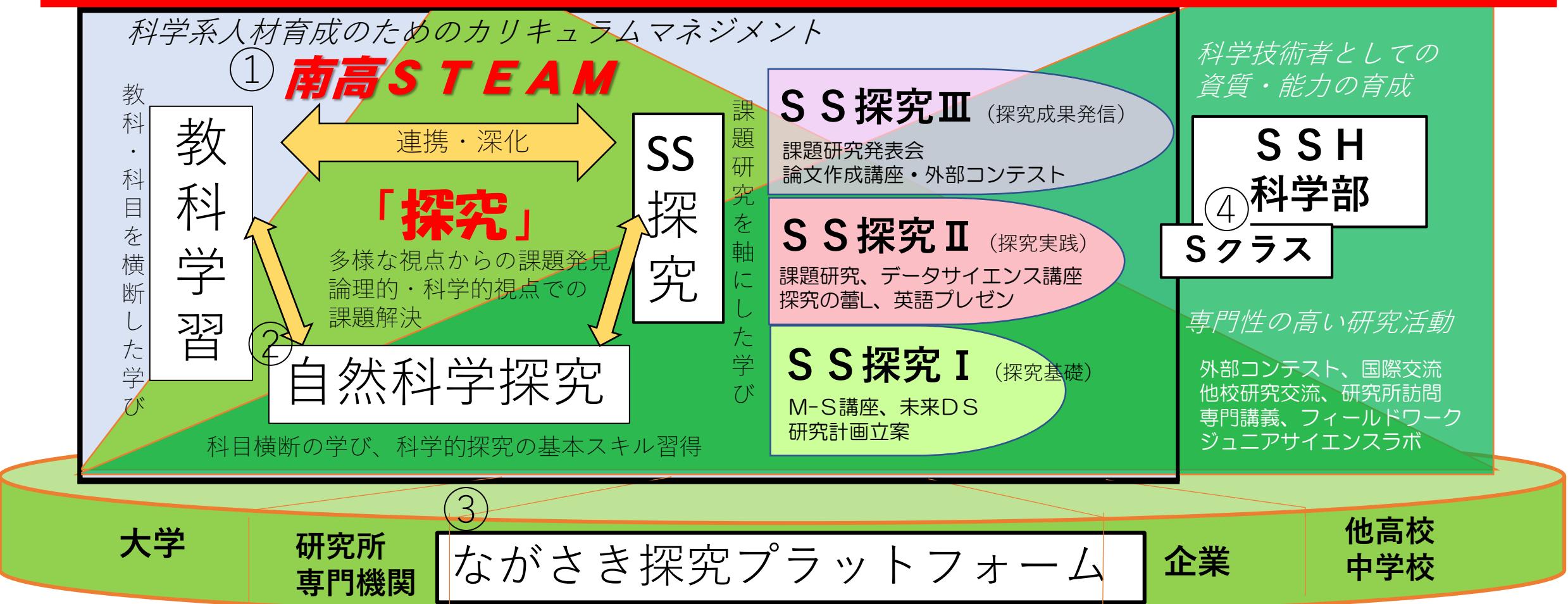
SSHの成果・効果1

未来デザイナーカの変容

長崎南高SSHでは、様々な学びの機会をとおして8つの未来デザイン力の獲得・向上を目指しています。

ながさき探究プラットフォームを基盤とした自己と社会の「未来をデザイン」できる科学系人材育成

未来 デザイン力	キャリアプランニング	学びに向かう 姿勢	自己管理力	課題対応力	自己有能感	品性ある言動	コミュニケーション力	チームワーク
要素例	①社会貢献意識 ②社会・大学分析 ③自己分析・目標設定	南高STEAMで獲得 ①学ぶ意義 ②学びの技法 ③学びの習慣	課題研究における ①自己研鑽 ②主体的判断 ③タイマネジメント	課題研究における ①テーマ設定 ②研究手法の獲得 ③創意工夫	課題研究における ①成功・挫折体験 ②ストレスマネジメント ③レジリエンス	研究倫理としての ①生命尊重 ②多様性尊重 ③相手意識	課題研究における ①傾聴 ②対話 ③発表・発信	課題研究における ①目的意識共有 ②リーダーシップ ③フォロワーシップ



調査方法

未来デザイン力マスター ブリックを用いた
生徒による自己評価（10段階）

調査時期

年度初め、学期末、及びSSHの大きな事業後等

未来デザイン力 学年間比較

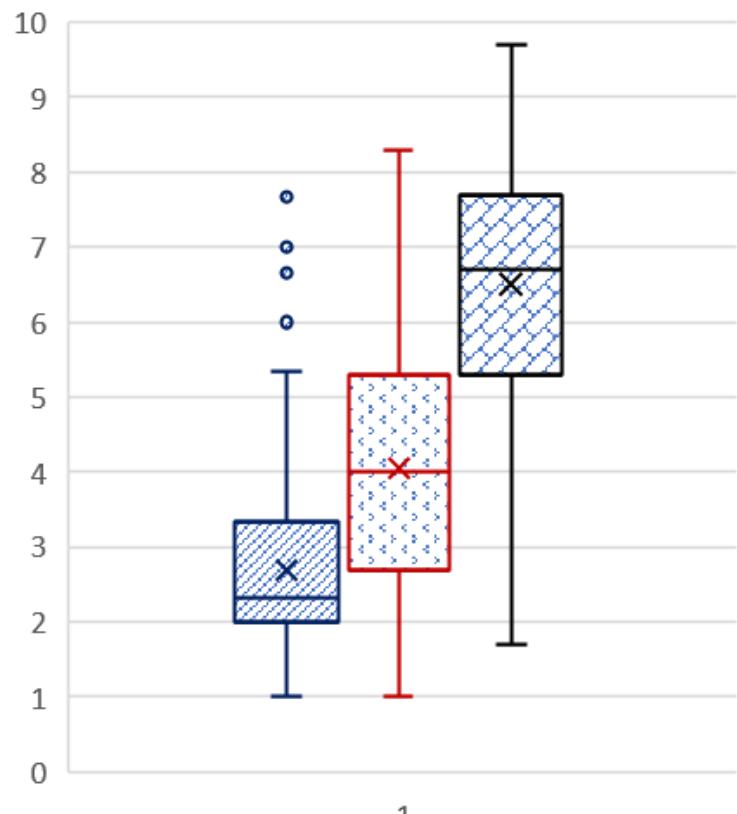
マスタールーブリック 10段階

R6年度 1年5月、2年7月、3年9月

N= 236 202 223

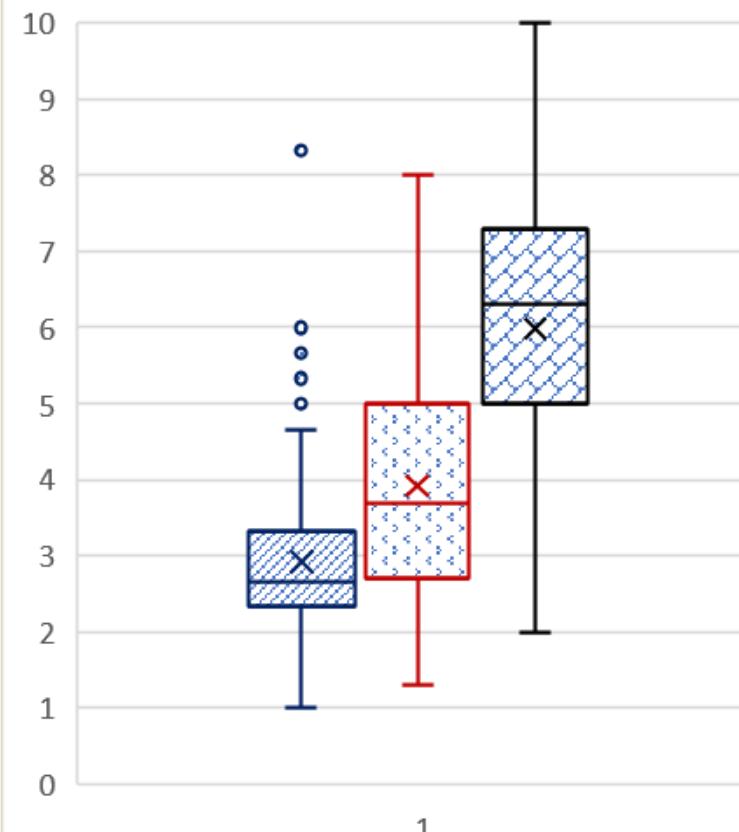
Aキャリアプランニング

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



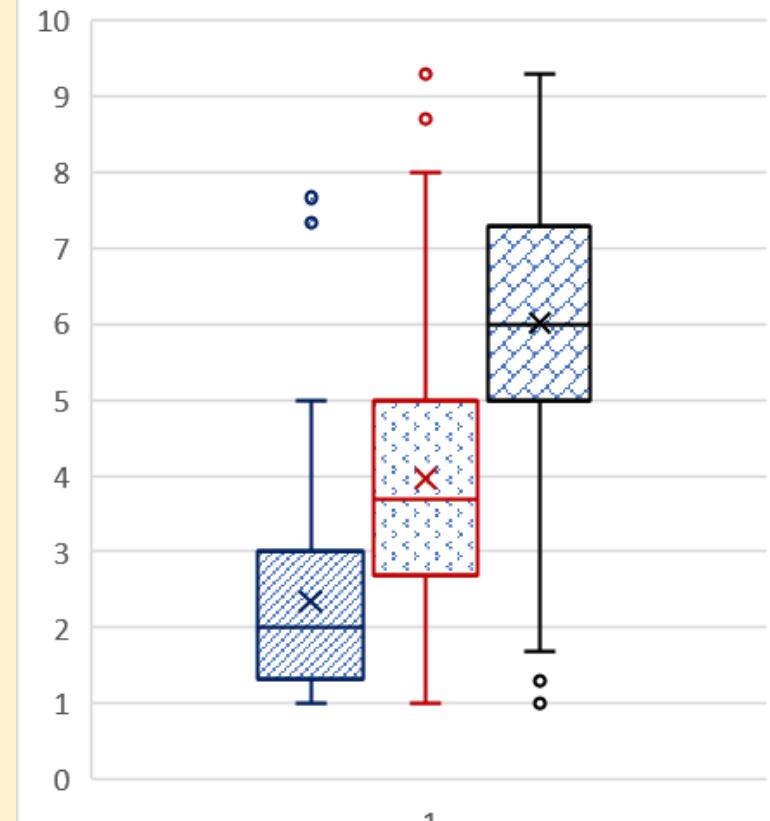
B学びに向かう姿勢

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



D課題対応力

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



未来デザイン力 学年間比較

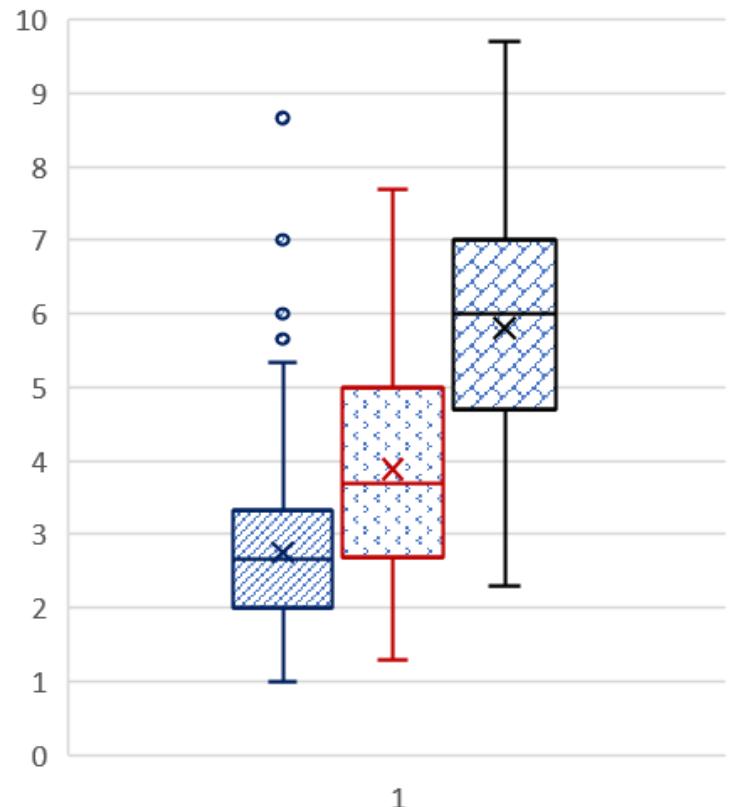
マスター ブリック 10段階

R6年度 1年5月、2年7月、3年9月

N= 236 202 223

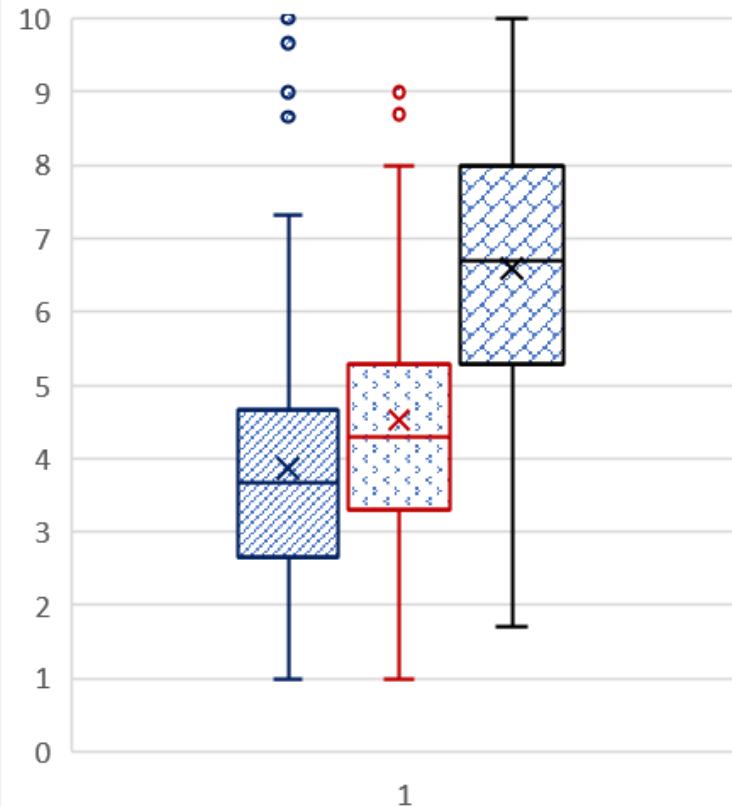
C自己管理力

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



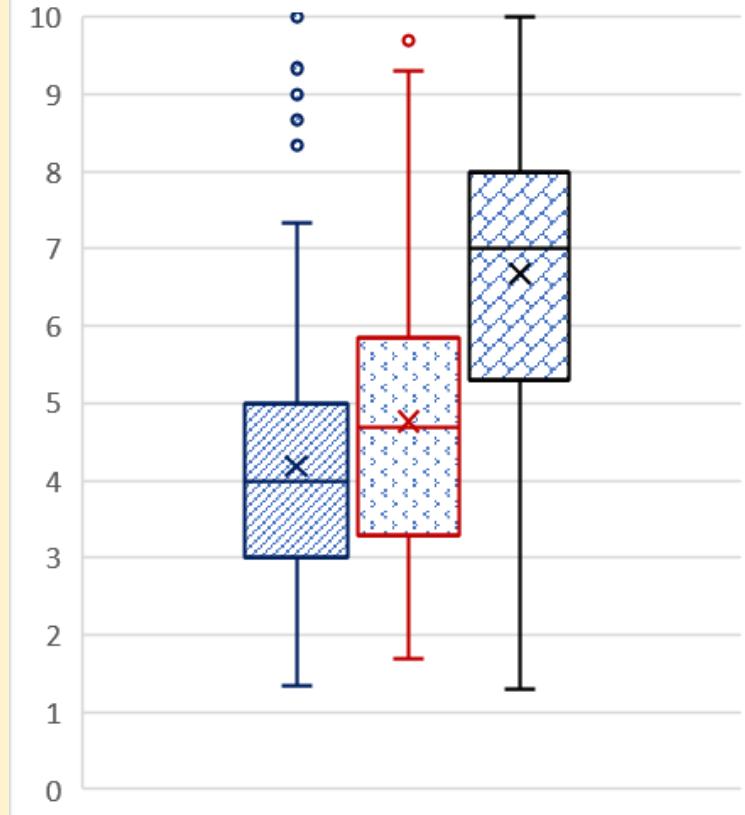
E自己有能感

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



Gコミュニケーション力

■ 1年生 □ 2年生 △ 3年生



マスタールーブリック 10段階

R6年度 2年7月、12月S以外、Sクラス

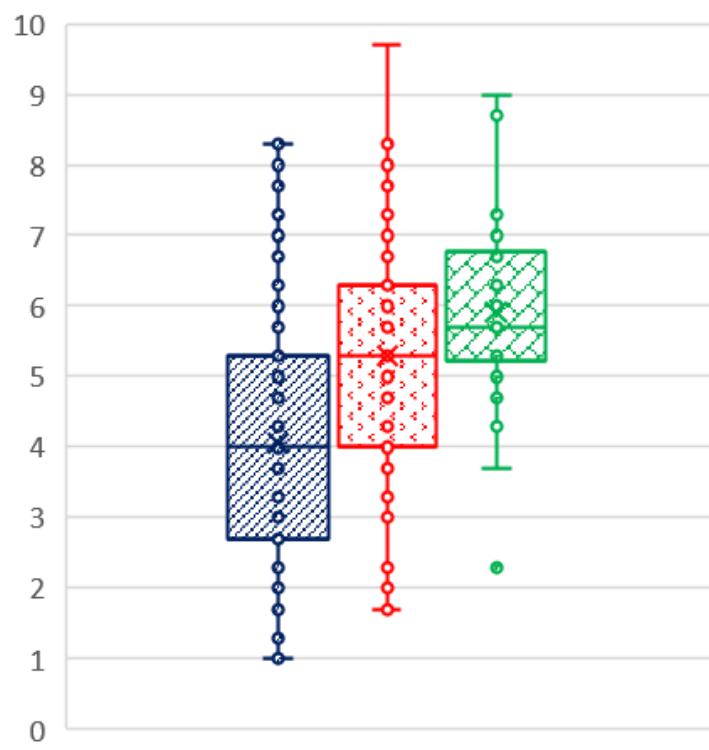
N= 202

165

32

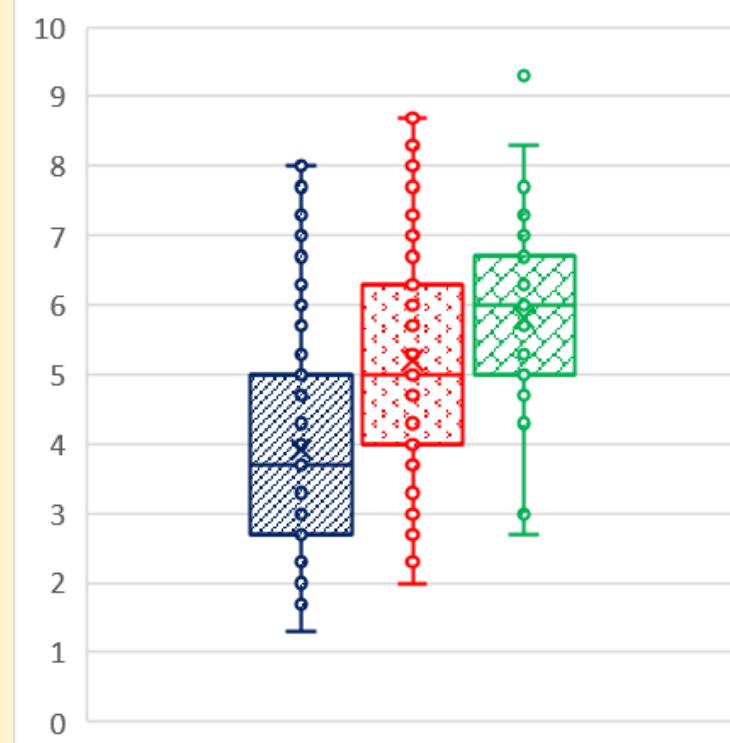
Aキャリアプランニング

■ 2年生7月 □ 2年生12月S以外
▣ 2年Sクラス12月



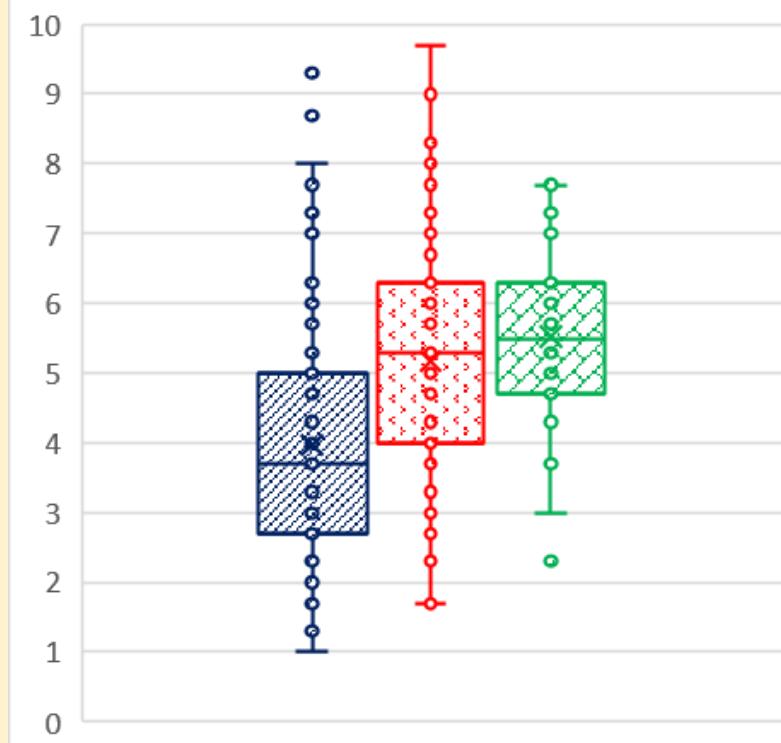
B学ぶ姿勢

■ 2年生7月 □ 2年生12月S以外
▣ 2年Sクラス12月



D課題対応力

■ 2年生7月 □ 2年生12月S以外
▣ 2年Sクラス12月



未来デザイン力の推移（外部発表経験の有無）

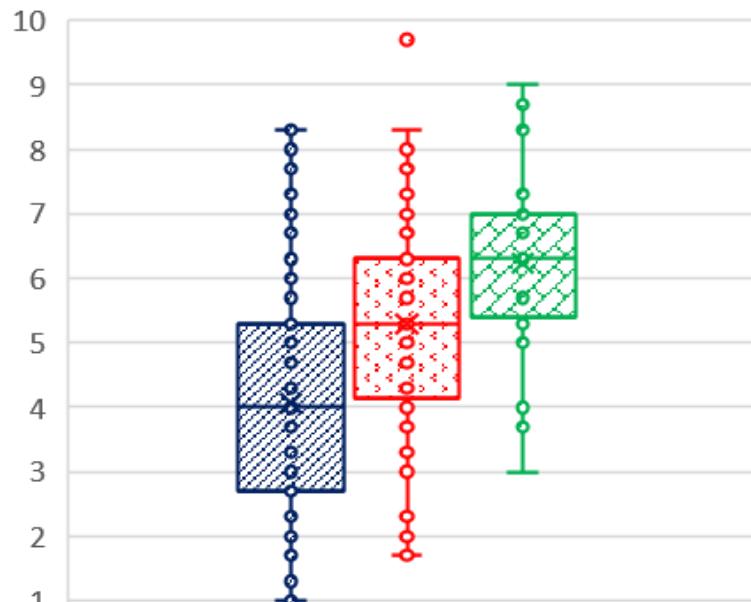
2年生マスターブリック (R6 7月→12月)

Aキャリアプランニング

■ 2年生7月

□ 2年生12月校外発表経験者以外

▨ 2年12月校外発表経験者

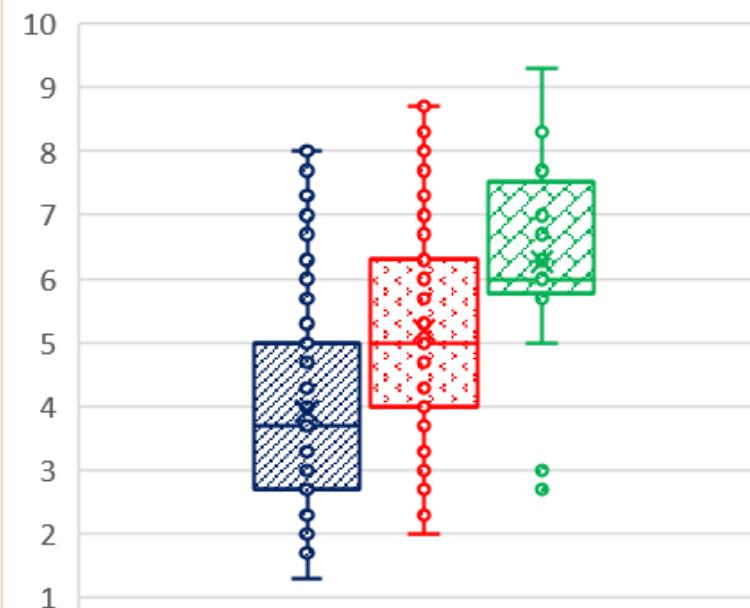


B学ぶ姿勢

■ 2年生7月

□ 2年生12月校外発表経験者以外

▨ 2年12月校外発表経験者

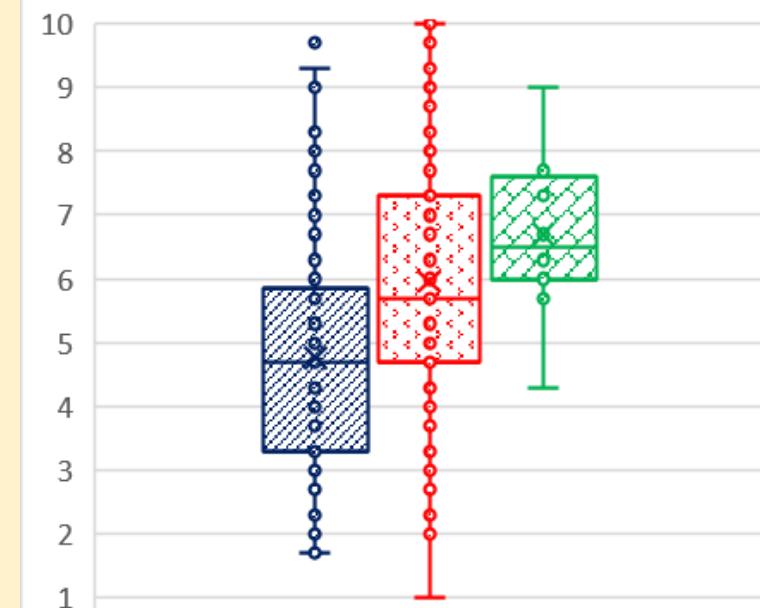


Gコミュニケーション力

■ 2年生7月

□ 2年生12月校外発表経験者以外

▨ 2年12月校外発表経験者



外部発表を経験した生徒は、一段高い深い学びの興味関心の高揚とともに、学外の人々と対峙する機会を得ることで、自身の行動を正し、積極的に対話する姿勢を高めてきた傾向がみられた

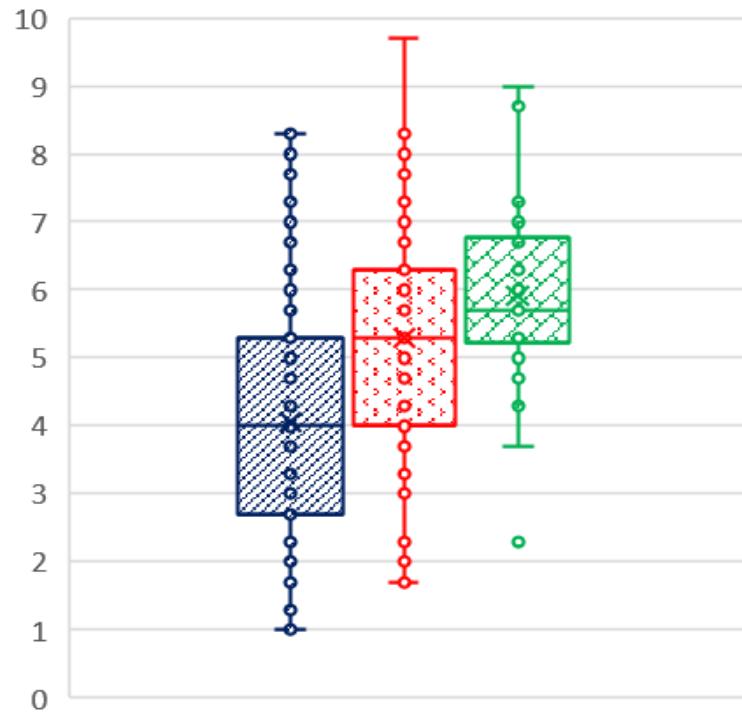
未来デザイン力の推移 (SSHクラス)

2年生マスターブリック (R6 7月→12月)

Aキャリアプランニング

■ 2年生7月 ■ 2年生12月S以外

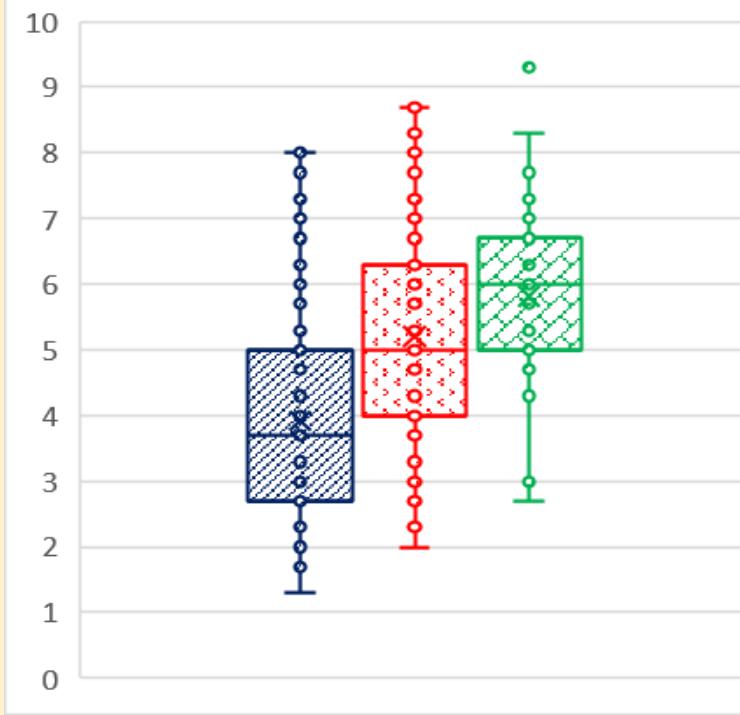
▣ 2年Sクラス12月



B学ぶ姿勢

■ 2年生7月 ■ 2年生12月S以外

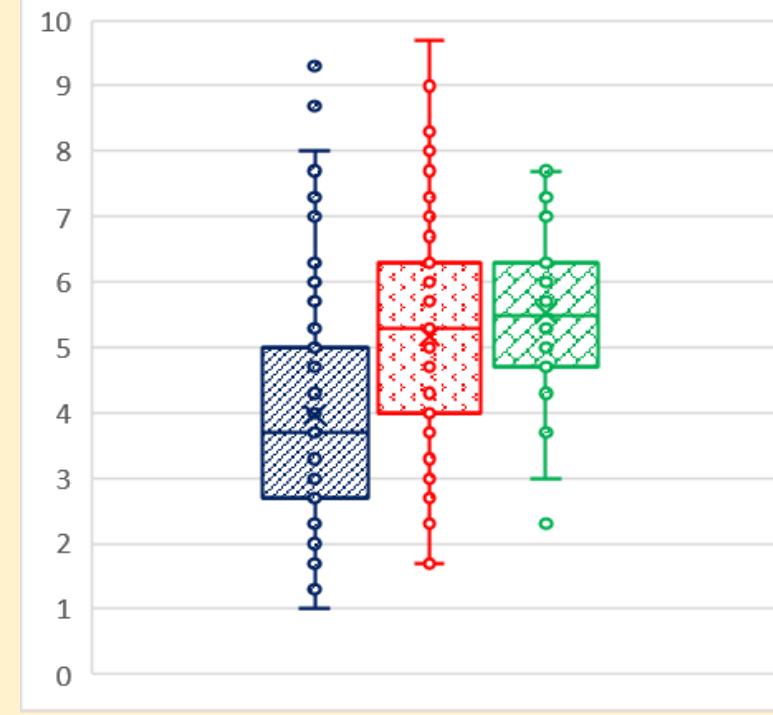
▣ 2年Sクラス12月



D課題対応力

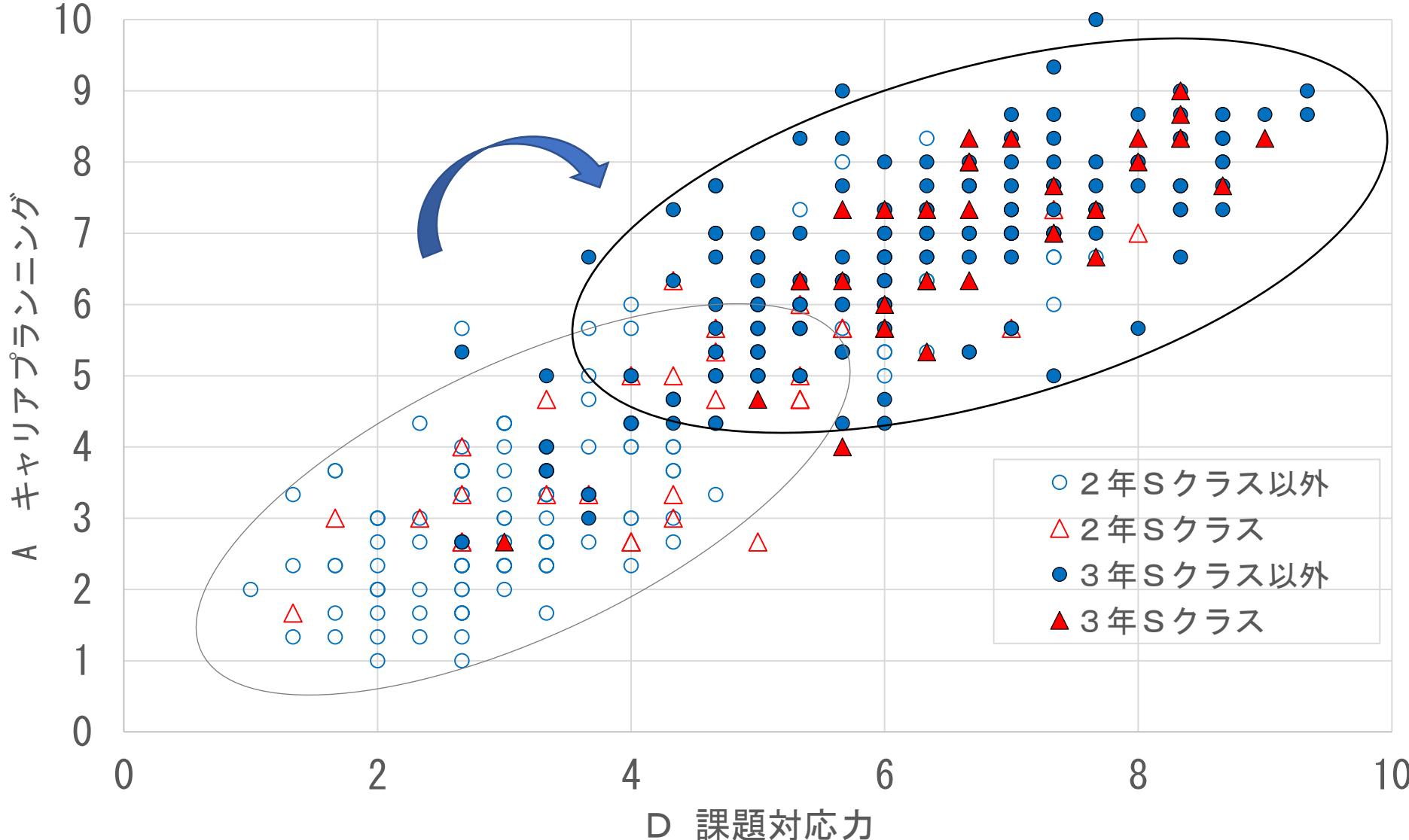
■ 2年生7月 ■ 2年生12月S以外

▣ 2年Sクラス12月



生徒は自身の成長や変化を実感しており、臨機応変に対応できる力や他者の意見を尊重する姿勢が身についていることがわかった。

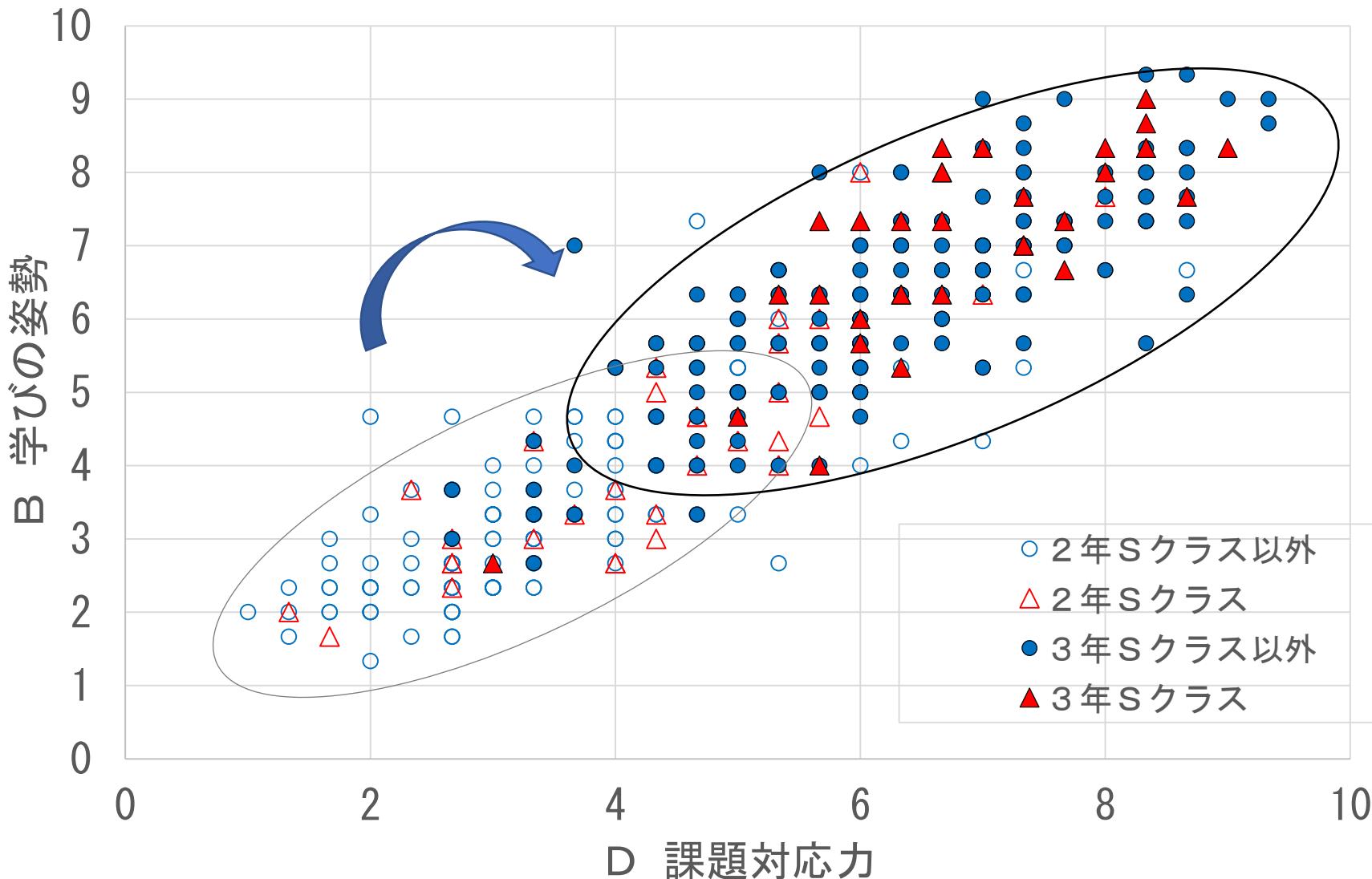
未来デザイン力A・D推移 (R5年度入学生 2年7月→3年7月)



学年生徒全体として、「D課題対応力」と「Aキャリアプランニング」の評価値の分散は、2年次のものと比較して3年次の方が一段高い右上方へ移動した。

Sクラスの生徒は、Sクラス以外の生徒と比較すると、「D課題対応力」について、高い評価に変化した生徒が多くかった。

未来デザイン力B・D推移 (R5年度入学生 2年7月→3年7月)

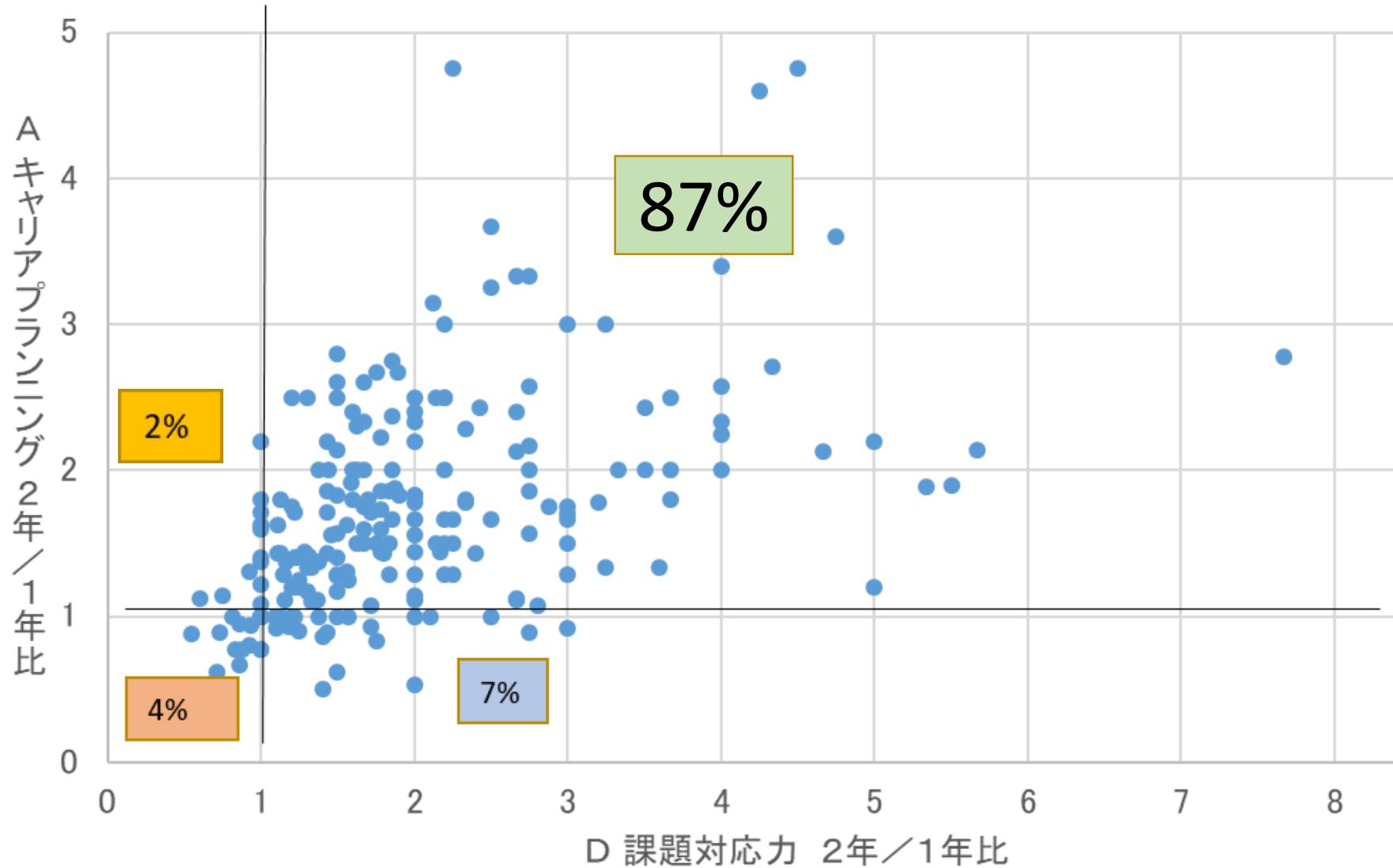


学年生徒全体として、「D課題対応力」と「B学びの姿勢」の評価値の分散は、2年次のものと比較して3年次の方が一段高い右上方へ移動した。

学校設定科目「SS探究・総合環境科学(第Ⅱ期継続)」や教科授業全般をとおして「南高STEAM」の実践に取り組んだ結果、未来デザイン力の変容が良い方向に表れてきた。

未来デザイン力の変化率 (R6年度入学生 1→2年)

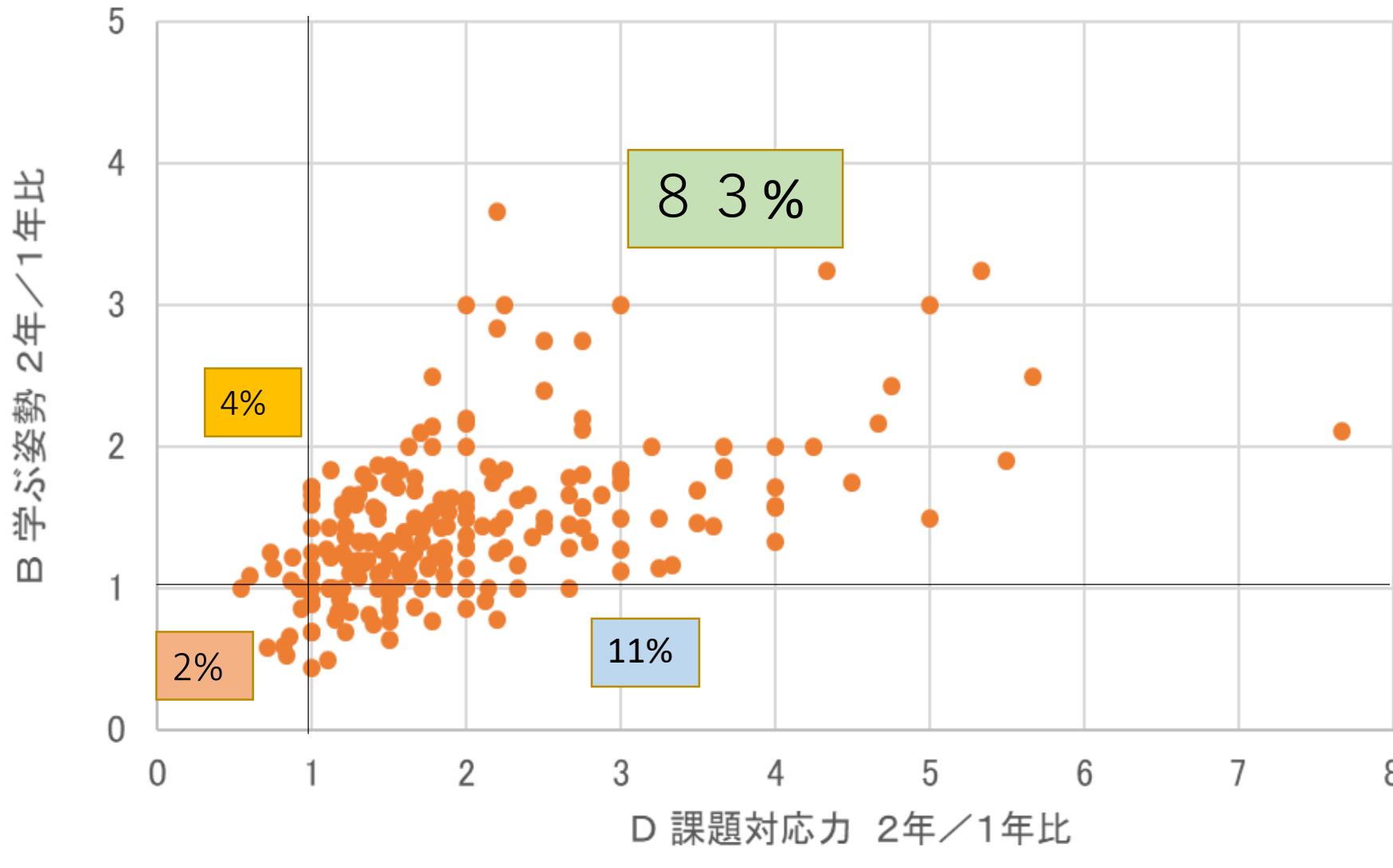
未来デザイン力 D・A変化 (64回生2年／1年比)



2年次において、「D課題対応力が1年次より伸びた」と回答し、かつ「Aキャリアプランニング」も1年次より伸長したと回答した生徒は、全体の87%であった。

未来デザイン力の変化率 (R6年度入学生 1→2年)

未来デザイン力 D・B変化 (64回生2年／1年比)



「D課題対応力が1年次より伸びた」と回答し、かつ「B学ぶ姿勢」も1年次より伸長したと回答した生徒は83%であった。

「南高STEAM」の実践に取り組んだ結果、「課題対応力の向上が図られた」生徒は、自身のキャリアプランニングの意識や学びに向かう姿勢の変化も同時に向上し、将来に向けて学ぶ意欲や生き方の探求に良い変化を示した生徒が多く存在した。